

ことわざに親しもう

年 組 番 名前

一、次のことわざは、動物どうぶつの名前なまえが出てくることわざです。



の中から動物どうぶつを選んで書きこみましょう

① () の耳みみに念仏ねんぶつ

② 泣きっ面なみけに ()

③ () に小判こばん

④ () も木きから落おちる

⑤ 能のうある () はつめつめをかかくす

⑥ () に真珠しんじゆ

⑦ とらぬ () の皮算用かわざんよう

⑧ 飛とんで火ひに入いる夏なつの ()

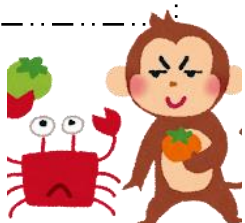


たか
ねこ

たぬき
ぶた

馬
虫

さる
はち



二、次のことわざは、数字がふくまれたことわざです。

に漢数字かんすうじを入れましょう。

①石の上にも

年

②

死しに一生をえる

③聞くは

時の恥はじ、聞かぬは

生の恥

④

転ころび

起おき

⑤一を聞いて

を知る

⑥三つ子のたましい

まで

⑦

里の道も一歩から

(一) ことわざとその意味を線でつなぎましょう。

かっぱの川流れなが

小さなこともつみ重ねれば大きな力となる。毎日の努力が大切である。

ちりも積もれば山となる

どんなにたく意でも、ゆだんするとしっばいする。

百聞は一見にしかずひやくぶん いっけん

一度に二つのことをしようとするとうまくいかない。結局どちらもうまくいかない。

目は口ほどにものをいう

何度も人に聞くより、自分の目で見た方がよくわかる。

二兎を追う者は一兎をも得ずにと お いっと え
※兎…うさぎ

その人の目を見れば、何が言いたいかわかる。

(二) (一)の五つのことわざのうち、次のお話の中では、どれを使^{つか}ったらよいでしょう。
当てはまることわざを入れましょう。

①毎日一文字ずつ漢字^{かんじ}の練習^{れんしゅう}をしていたら、いつの間にか四年生で習^{なら}うすべての漢字が書けるようになったよ。まさに

だね。

②おにごっここの時、林さんと森さんを一度^{いちど}につかまえようと思って走^はったけれど、二人ともにげられちゃった。林さんだけ追^おいかければよかったな。

っていうものね。

③お母さんはまだおこっているんだな。だまっているけれど、

から、わかっちゃうよ。

「ことわざ」に親しもう (答え)

① (馬) の耳に念仏

*人の意見いけんに耳をかさず、少しもこうかがない。

② 泣きっ面に (はち)

*不幸ふこうなことが重なること。

③ (ねこ) に小判

*何の役やくにもたたないこと。

④ (さる) も木から落ちる

*上手にできる人でも時にはしっぱいすることがある

⑤ 能ある (たか) はつめをかくす

*のう力がある人は軽々かるがるしく見せつけない。

⑥ (ぶた) に真珠

*何の役にもたたないこと。

⑦ とらぬ (たぬき) の皮算用

*まだ手に入らないのに、入ると期待きたいしてその先をあれこれと計画する。

⑧ 飛んで火に入る夏の (虫)

*自分から進すすんできけんなことにとびこんでいくこと

①石の上にも

三

年

*つらくても続け^{つづ}れば、いつかはやりとげられる

②九

死に一生をえる

*あぶないところで、きせきてきに助^{たす}かる

③聞くは

一

時の恥、聞かぬは

一

生の恥

*知らないことは進んで聞くべきだ

④七

転び

八

起き

*何回しっぱいしてもあきらまないこと

⑤一を聞いて

十

を知る

*とてもかしこく理^り解^{かい}力^{りょく}がある

⑥三つ子のたましい

百

まで

*小さいころの性^{せい}格^{かく}は年をとっても変^かわらない

⑦千

里の道も一歩から

*どんなに大きなことも努^{どり}力^{りょく}を重ねていけば成^{せい}功^{こう}する

(一)

かっぱの川流れなが

ちりも積もれば
山となる

百聞ひやくぶんは一見いっけんに
しかず

目は口ほどにも
のをいう

二兎にとを追おう者は
一兎いっとをも得えず
※兎…うさぎ

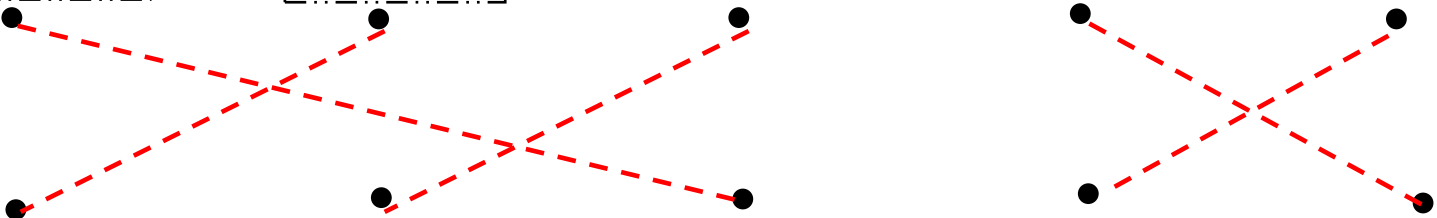
小さなこともつみ重ねかされ
ば大きな力となる。毎日まいの
努力どりよくが大切である。

どんなにとく意いでも、ゆ
だんするとしっばいする。

一度に二つのことをしよ
うとすると結局けっきよくどちらも
うまくいかない。

何度なんども人に聞くより、自
分の目で見た方がよくわか
る。

その人の目を見れば、何
が言いたいかわかる。



(二)

- ① ちりも積つもれば山となる
- ② 二にと兔を追おう者は一い兔とをも得えず
- ③ 目は口ほどにものをいう